

平成26年第4回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成26年11月28日
大仙市長 栗林次美

平成26年第4回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について報告申し上げます。

はじめに、市が徴収義務者となる所得税の源泉徴収に係る徴収漏れについて報告いたします。

この問題については、全国的に顕在化する状況となっており、多くの地方公共団体で所得税の源泉徴収に係る徴収漏れが報道されているところであります。

本市においても、大曲税務署の行政指導に基づき、源泉徴収事務について自己点検を行ったところ、平成22年1月1日以降、源泉徴収の対象者であるにも関わらず、報酬等の支払いの際、誤った認識により、個人事業主10人に係る77件について源泉徴収を行っていなかったことが確認されたところであります。

源泉徴収漏れの所得税額は1,588万1,142円となっており、これに不納付加算税74万7,500円及び延滞税50万400円が加わり、大曲税務署に納付する金額の合計は1,712万9,042円となることから、今次定例会に予算の補正をお願いするものであります。

今回の事案については、源泉徴収に対する認識の誤りにより、関係各位に多大なご迷惑とご心配をおかけすることとなり、深くお詫びを申し上げますとともに、再発防止に向けた取り組みを徹底してまいります。

次に、10月4日から11月3日までの1カ月間開催された「第29回国民文化祭・あきた2014」について報告いたします。

秋田県では初めての開催となった国民文化祭は、テーマを「発見×創造 もうひとつの秋田」とし、県内全25市町村で110のイベントが開催されたところであります。本市においては、市主催事業として「囲碁サミット2014 in 大仙」、「秋田の美×写真の力」、「国指定名勝旧池田氏庭園 秋の園遊会」の3事業を開催したほか、県民参加事業として「伝統×挑戦 日本の花火 大曲の花火」、「民謡継承祭典 民謡を次世代へ唄い踊り継ぐ」、「音楽でつながろう みんなの校歌コンテスト」の3事業、「リフォームファッション

ショー」や「秋田県民歌を歌おう」など市独自の支援事業が12事業、「鈴木空如特別展」などの応援事業が23事業実施されております。また、11月3日のフィナーレイベントでは、秋田市広小路において国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」が披露され、大勢の観衆を魅了しております。

市主催事業で約1万8千人、県民参加事業で約3万2千人、支援事業で約1万人、応援事業で約1万人、市内外の出演者や市民の市外行事への出演参加や事業見学などを加えますと、国民文化祭全体では延べ10万人を超える皆様に文化の祭典を楽しんでいただいております。改めて、開催にご尽力をいただいた関係各位、関係団体にお礼を申し上げますと存じます。

なお、旧池田氏庭園については、本年、国の名勝指定10周年を迎えたことから、9月21日に国民文化祭応援事業として記念シンポジウムを開催しております。また、国民文化祭にあわせ駐車場や米蔵、受付施設を整備し、来園者へのサービス向上と利便性を図ったことにより、秋の一般公開期間中の来園者は、昨年度より1,549人多い1万5,620人となっております。

このほか、本年の春から夏にかけて、東京藝術大学をはじめ全国3カ所で展示された鈴木空如の法隆寺金堂壁画模写を中心に、空如作品をさらに多くの方々に知ってもらうため国民文化祭応援事業として開催した鈴木空如特別展には、10月24日から11月3日までの11日間で、延べ1,660人の見学者が訪れております。

次に、雪対策について申し上げます。

冬期間においても市民が安全・安心な生活を送ることができるよう、総合的かつ計画的な雪対策に取り組むための指針として、昨年度から作業を進めてまいりました「大仙市雪対策総合計画」については、9月末に策定が完了し、今後は、この計画に基づき計画の理念である「雪に負けない市民協働のまち・大仙」の実現を目指し各施策を推進してまいります。

なお、12月6日には中仙市民会館ドンパルにおいて、市民・事業所・行政が一体となって雪対策に取り組む意識を高めることを目的に、地域協議会委員研修会の開催を予定しております。

道路等の除排雪については、10月31日までに全ての除雪委託業者との契

約締結を終え、11月5日には除雪出動式を行ったところであり、初雪を観測した15日には、市内一部路線において除雪車が初出動しております。

なお、除雪事業の効率性と透明性を確保するため、昨年度、GPS端末を活用し、新たに構築した除雪情報提供システムの本格運用を11月1日から開始したほか、市民の皆様がリアルタイムで除雪作業の状況を確認することができる公開用ウェブサイトについても、12月1日から運用を開始する予定となっております。

また、市では、除雪委託業者の経営環境の安定と担い手オペレーターの確保を図り持続可能な除雪体制を確立するため、除雪委託業者の共同企業体化や複数年契約制度の導入を検討しておりましたが、先般、国土交通省が全国の自治体を対象に公募した「多様な入札契約方式モデル事業」において、本市が申請した「道路維持・除雪に係る事業」が全国で5件の支援枠に選定されたことから、来年度の制度構築、さらには導入に向け大きく前進するものと考えております。

空き家や高齢者世帯等の雪対策については、昨年度まで、空き家対策事業や高齢者世帯等除雪サービス事業において、それぞれ巡回や除排雪作業を行ってまいりましたが、本年度からは、空き家・高齢者世帯等除排雪事業として事業を統合し効率的で効果的な体制で実施してまいります。なお、一人暮らしや高齢者世帯等の方々の冬期間の生活の支えとなっている除雪ボランティア「大仙雪まる隊」の出動式は、12月10日に行われる予定であります。

また、昨年度、市発注工事の受注者に対し、地域の雪下ろしなど除排雪作業への配慮を依頼したところではありますが、本年度は、市発注工事の総合評価落札方式に「屋根の雪下ろしに関する取り組み」として取り組み件数及び市広報への協力業者としての掲載を評価することを追加し、除排雪作業の人員確保に努めてまいります。

次に、花火産業構想の進捗状況についてであります。

「大曲の花火」の開催にあたっては、毎年、大会終了後の全体会議や東京での全国の花火師との懇談会の開催など、次年度に向けた改善策などの協議を行いながら、さらなる高みを目指しております。

「大曲の花火」の持続的発展を前提とし、「大曲の花火」のブランド力を最大限に活かそうとする花火産業構想については、市内花火業者、足利工業大学、国・県との協議を継続しながら、実施計画の作成に取り組んでおりますが、12月中旬までに、市、大曲商工会議所、大仙市商工会の三者によるプロジェクト会議を開催する予定であり、今次定例会最終日には、進捗状況と現在検討中の事業等を議員各位にお示ししたいと考えております。

なお、県の支援策である「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」については、10月に県とのプロジェクトチームが設置されたことから、11月12日、県及び市の関係課長等による第1回プロジェクトチーム会議が開催され、推進体制や今後の日程等について確認等を行っております。

次に、衆議院議員総選挙についてであります。

11月21日、衆議院が解散されたことによる第47回衆議院議員総選挙については、12月2日公示、14日投開票という日程となったところであり、短期間での選挙事務となりますが、市といたしましては、万全の体制で臨んでまいります。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況等について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

職員採用試験については、各職種あわせて101人の申し込みがあり、最終合格者は一般行政事務15人、保健師2人、土木2人、中級電気1人、職務等経験者3人の計23人としております。

大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験については、各職種あわせて51人の申し込みがあり、最終合格者は上級消防5人、初級消防8人、初級救命2人の計15人となっております。

アーカイブズ事業については、平成28年度の市公文書館設置に向け、11月8日、大曲交流センターを会場に市民など約100人の参加のもと、公文書館設置シンポジウムを開催しております。シンポジウムでは、「今なぜ公文書館が必要なのか」をテーマに、秋田大学教育文化学部の渡辺英夫教授わたなべひでおによる基

調講演のほか、渡辺教授をはじめとする公文書館設置懇話会委員によるパネルディスカッションなどを行っております。

次に、企画部関係についてであります。

大曲通町地区第一種市街地再開発事業については、9月26日に事業関係者など約120人が出席し南街区建築工事の起工式が行われ、10月上旬には、既に解体が完了した南街区西側の事務所棟及び駐車場棟の建築工事に先行着手しております。10月末には全ての解体工事が完了し、11月上旬には健康福祉棟及び児童福祉棟の建築工事に着手しておりますが、現在は各棟とも基礎工事を施工中で、11月末時点での工事進捗率は5パーセントを見込んでおり、概ね順調に進捗しております。

なお、大曲厚生医療センターでは、旧第3駐車場に駐車台数477台の5階建て立体駐車場を建設中であり、来年2月の供用開始予定と伺っております。

また、大曲駅前通り線の歩道無散水融雪設備及び病院西1号線の車道散水融雪設備の整備については、大曲駅前通り線における市街地再開発組合施工分を除き、12月中旬までに完了する予定となっております。

非核平和都市宣言事業については、10月23日、大曲市民会館を会場に約400人の参加のもと、5回目となる「市民平和の集い」を開催しております。集いでは、7月に広島市へ非核平和レポーターとして派遣した中学生8人による学習報告を行ったほか、昨年度に引き続き実施した平和標語コンクールの最優秀賞受賞者に対する表彰や、フォトジャーナリストの安田菜津紀^{やすだ なつき}さんによる講演などを行っております。

大仙市誕生10周年記念式典については、来年3月22日の開催を予定しており、市民と職員で構成する実行委員会を組織し、厳粛でありながらも、市民目線による手作り感のある式典とすることを目的に、現在、内容等について検討を行っております。

神奈川県座間市との交流については、本年度においても活発に行われており、10月11日、12日には座間市議会議員の皆様が本市を訪問され、本市議会議員の皆様との交流が行われたところであります。

座間市とは、平成17年7月、災害時相互応援協定を締結しておりますが、

本市誕生10周年を機に、旧中仙町時代から20年以上にわたる交流をより強固なものとし、様々な分野に広げていきたいとの考えのもと、友好交流都市協定を結ぶことで座間市との協議が整ったことから、10周年記念式典の前日である3月21日に締結式を行う予定としております。

なお、今次定例会に、本市誕生10周年記念式典の開催及び座間市との友好交流都市協定締結に係る予算の補正をお願いしております。

また、戊辰戦争が縁となり始まった宮崎市との有縁交流については、10月31日から11月2日にかけて、私やさどわら会の会員をはじめ一般公募の市民6人を含む計22人が宮崎市を訪問し、「大曲の花火」など大仙市のPRと交流を深めてきております。

国際交流については、韓国^{たんじん}唐津市から私に対し年内の招待がありましたが、年度内の3月を目途に訪韓し、新たに選出された唐津市長と会談のうえ、両市の友好協力関係を強化したいと考えており、今次定例会に、訪韓に係る予算の補正をお願いしております。

次に、市民部関係についてであります。

夏季の節電については、昨年に引き続き、6月から9月までを期間とし取り組んでまいりましたが、大仙市の最大使用電力は、震災前の平成22年同期間のピーク時点との比較で16.9パーセントの削減となったほか、市の主要施設における電気使用量も平成22年同期比23.4パーセントの削減となるなど、市民の皆様からのご協力をいただき目標を達成しております。

また、冬季の節電については、12月から3月まで「無理のない範囲での節電」をお願いすることとしており、継続した節電の取り組みを行うとともに、地球温暖化防止月間である12月には、事業者を対象にエコチャレンジを実施し、引き続き温室効果ガスの削減に取り組んでまいります。

公共施設再生可能エネルギー導入事業については、大曲西、平和、西仙北、中仙、協和、仙北及び太田の7中学校の太陽光発電・蓄電池システム導入工事を10月下旬までに完了しております。また、来年度の導入工事を予定している大曲、神岡及び中仙の3庁舎については、実施設計業務の発注を終えており、2月下旬の完了を予定しております。

大曲仙北広域市町村圏組合による新火葬場建設工事については、現在、躯体工事が行われておりますが、硬い地盤層での掘削工事となったことや労働力不足などにより、完成期日が来年3月20日から4月30日に延長となることから、供用開始は6月1日となる予定であります。なお、10月末時点での工事進捗率は24パーセントとなっております。

廃棄物処理については、本市と美郷町は大仙美郷環境事業組合で、仙北市は単独で、ごみ・し尿処理施設及び最終処分場を運営しておりますが、人口減少、施設の老朽化、合併特例期間終了による財政事情など共通の課題を抱えていることから、今後の廃棄物処理体制について、大仙市、仙北市、美郷町、大仙美郷環境事業組合及び大曲仙北広域市町村圏組合において、広域化を視野に入れた検討を始めることとしております。

不法投棄防止対策については、毎年、大仙保健所管内で実施している不法投棄クリーンアップが、県や市、秋田県産業廃棄物協会、地域住民ボランティアなどが協力し、延べ105人の参加のもと、10月10日と17日の2日間にわたり市内5カ所で実施され、テレビや廃タイヤなど合計3.2トンの不法投棄物を回収しております。

交通安全対策については、10月22日に協和地域において第6回交通安全推進集会を開催しております。県警音楽隊や各地域の交通安全関係団体など約370人による交通安全啓発パレードの後、協和市民センター和ピアを会場に約400人が参加した集会では、協和小学校和太鼓クラブの演奏、秋田大学男鹿なまはげ分校長の茂木 優^{もてぎまさる}さんによる講演などを行っております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

社会福祉法人大仙ふくし会が市の財政支援を受けて実施している特別養護老人ホーム峰山荘移転改築事業については、屋根及び外壁工事を終え、現在は、内装・設備工事に取りかかっており、11月15日時点の工事の進捗率は57パーセントと伺っております。

障がい者福祉施設については、社会福祉法人柏仁会が、来年4月の開設を目指し、刈和野地区に障がい者施設と介護保険施設から成る複合施設の建設を進めておりますが、本施設の整備に対しては、地域総合整備財団の協力による地

域総合整備資金貸付と、障がい者施設部分の建設費に対する財政支援を予定していることから、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

県単児童館の自治会等への無償譲渡については、本年度、改修を計画している8館のうち、もとき、木内、中田、上高野の4館は工事が完了し、残る富士見町、若竹、中野、大浦の4館も工事に着手しております。それぞれの地域の集会所として活用していただけるよう、譲渡に向けた手続きを進めてまいります。

放課後児童クラブについては、今後、小学校6年生まで利用対象とされることから、年齢幅のある子どもたちが安全にのびのびと過ごせる施設の整備が求められております。このため、来年度建設を予定している神岡児童クラブは、そのモデル的な施設になることを目指すものでありますが、今次定例会において設備関係等の実施設計に係る予算の補正をお願いしております。

大腸がん検診研究事業については、本年度から市内企業にも参加についてご協力をいただくとともに、11月と12月の休日のうち4日間を指定し、追加の大腸がん検診を実施することとしております。また、6月からは、秋田赤十字病院でも内視鏡検査による大腸がん検診を実施しており、さらなる参加者数の増加を図るべく努めております。本年度の新たな参加者数は、11月26日現在868人で、参加者の累計は4,249人となっており、目標参加者数の6千人に対して、約71パーセントの参加率となっております。

自殺予防対策については、11月15日に大曲交流センターを会場に、一人ひとりが「命の尊さ」と「自殺予防」を考える機会として「こころといのちを考える集い」を開催し、市民など160人の参加をいただいております。

老人クラブ活動については、11月13日、大分県別府市で第43回全国老人クラブ大会が開催され、本市老人クラブ連合会女性部の「創作ミュージカル詩の国秋田」が舞台発表の「演じる活動」の部において、その創造性と調和が高い評価を受け、最高賞の金賞に輝いております。これを励みとして、活動がさらに活発になることを期待しているところであります。

敬老会については、9月2日の大川西根地区、四ツ屋地区、大沢郷・強首地区を皮切りに15会場で開催し、4,656人の方々からの参加をいただき、各会場とも盛会裡に終了しております。

金婚式については、10月30日に、仙北ふれあい文化センターを会場に開催し、結婚50年を迎えられた54組のご夫婦を祝福しております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作については、春先からの天候にも恵まれ、10月15日現在の農林水産統計による全国の作況指数が「101」の平年並み、秋田県は「104」、県南は「103」のやや良と発表されているほか、JA秋田おぼこの取りまとめによる本市の一等米比率は、98.3パーセントと過去5年間で昨年^に次ぐ高い水準となっております。

本年産の米の概算金の大幅な下落に伴い、減収が見込まれる農業者等を対象に県が創設した稲作経営安定緊急対策資金については、第5回臨時会において、債務保証料の全額を市が負担する補正予算を承認いただいたところであり、無利子融資制度として、市内金融機関では10月24日から順次取り扱いを開始しております。このうち、JA秋田おぼこによる11月25日現在の受付件数は388件で、貸付見込の総額は約4億4,300万円となっております。

本市農業の課題や方向性など今後の農業を語り合うことを目的とする大仙市農業活力創造懇話会については、10月と11月に各2回ずつ開催しており、この後、来年1月までに4回、計8回の開催を予定しております。懇話会でいただいたご意見やご提言、考え方を整理し、生産現場の声として新たな農業振興計画策定の基礎としてまいりたいと考えております。

大豆栽培モデル対策事業については、秋の天候にも恵まれ、大曲、西仙北、太田の3地域に設置した各実証ほ場とも、10月中に刈り取りを終えております。実証結果はまだまとまっておりますが、技術指導をいただいている東北農業研究センターからの情報によりますと、10アールあたり300キログラムに近い収量を上げているほ場もあると伺っております。今後、実証結果を取りまとめ、検討会を開催するとともに、実証により得られた成果をもとに、大豆生産のさらなる振興に努めてまいります。

園芸メガ団地整備事業については、「農事組合法人下黒土^{しもくろつち}アグリ」が主体となりトマトの試験栽培に取り組んでおり、8月の初出荷から11月末までの出荷を予定し、この間、約6トンの出荷が見込まれております。なお、9月末に

はパイプハウス全104棟が完成したところであり、来年度の本格栽培に期待しているところでもあります。

7回目となる大仙農業元気賞については、10月15日に関係団体や議員各位をはじめ多数の方々に出席をいただき、本市農業の若き担い手4人を表彰しております。このたび受賞された4人には、これまでの受賞者19人と同様、地域農業をけん引する若手農業者として、今後のさらなる活躍を期待しております。

また、11月14日に東京で開催された平成26年度全国優良畜産経営管理技術発表会において、仙北地域の佐藤匠^{さとうたくみ}さんが、「飼養管理技術の確立と資源循環型畜産への取り組み」について高く評価され、農林水産大臣賞・中央畜産会長賞を受賞しております。

このほか、地域農業の担い手として他の模範となる農業を実践し、顕著な実績をあげている農林水産業者等を表彰する県の「平成26年度ふるさと秋田農林水産大賞」において、このたびの大仙農業元気賞受賞者である太田地域の高橋雄太^{たか}さんが、担い手部門の「未来を切り拓く新規就農の部」で大賞を受賞しております。

各地域の秋まつりイベントについては、10月25日、26日の両日、大曲体育館や市役所駐車場などを会場に、10回目となる「大仙市秋の稔りフェア」を開催しております。特産品の直売、商工展示、芸術文化活動の発表、大曲農業高校生による仮装行列パフォーマンス審査が行われたほか、復興を支援している宮古市からは、本年もサンマ1千尾が提供されたことから、炭火焼きコーナーを設けるなど、多彩な催しを盛り込んだ2日間でありました。各イベント等の盛況ぶりは、来年8月開局予定の「FMはなび」により会場内で実況放送したところであり、快晴の秋空のもと、2日間で延べ3万4千人の市民に会場いただき、稔りの秋を楽しんでいただけたものと考えております。

また、10月5日から26日にかけて、「美山湖フェスティバル」、「かみおか地域文化祭」、「全国ジャンボウさぎフェスティバル」、「きょうわ祭」、「仙北公民館まつり」、「太田を元気にする秋まつり」、「なんがい地域祭」及び「にしせんぼく文化祭」を開催しており、それぞれ盛会裡に終了しております。

2回目となる「大仙市ふるさと物産フェア2014 in 有楽町」については、10月16日から19日までの4日間、東京のJR有楽町駅前広場と東京交通会館を会場に開催したところであります。

このイベントは、本市を首都圏でPRするため、市観光物産協会が中心となり、特産品の販売やご当地グルメの提供を行ったものでありますが、4日間とも好天に恵まれ、各ふるさと会会員の皆様をはじめ、一般のお客様にも多数来場していただき、大好評のうちに終了することができました。

また、市観光物産協会が実施する第2回「大仙市特産品開発コンクール」については、市内の企業、組合、各種団体等から11点の応募があり、審査員が消費者ニーズ、デザイン、技術・品質等を総合的に審査し、入賞5作品を市の特産品として認定したところであります。入賞作品は、県内外で開催するイベント等で広くPRに努めるほか、販路拡大のための活動支援等を行うこととしております。

10月から開催されているアフターデスティネーションキャンペーンについては、昨年の秋田デスティネーションキャンペーンに続く大型観光キャンペーンとして、12月31日まで開催されております。このキャンペーンのオープニングイベントとして、10月4日に、大曲駅と市の共催事業として実施した「大曲エキまつり」では、延べ8,500人の方々に楽しんでいただいております。また、11月1日には花火通り商店街において、「秋田ワインカーニバル&納豆サミット『カモースリング大曲』」が開催され、延べ5千人の方々に県産ワインや地酒の飲み比べ、「大曲納豆汁」や県内、東北のグルメ料理などを満喫していただいております。

このほか、11月8日、9日の2日間、アフターデスティネーションキャンペーンの記念イベントとして、本年度2回目の実施となる払田分家庭園ライトアップ事業「晩秋のファンタジーナイト」についても、大勢の方々が分家庭園の幻想的な景色を堪能しております。

10回目となる大仙市技能功労者表彰については、11月5日に推薦団体や議員各位をはじめ多数の方々に出席をいただき、ものづくりに対して優れた技能を持ち本市産業の発展に尽力された管工事業、畳製造業、建築板金業、鍛冶業の4分野4人の方々に技能功労者として表彰しております。

来年3月高校卒業予定者の就職状況については、ハローワーク大曲の集計では、10月末現在で、就職希望者は328人、このうち内定者は284人、就職内定率は86.6パーセントと昨年同期との比較で11.9ポイント増加しております。

また、本市とハローワーク大曲、県仙北地域振興局、仙北市及び美郷町で構成する仙北地域雇用促進連絡会議が、10月16日に開催した新規高卒者就職面接会において、参加36事業所が市内の高校を含む11校37人の生徒と面接を行い、10月31日現在5人が採用の内定を受けております。

企業対策については、11月18日、7回目となる「大仙市首都圏企業懇話会」を開催し、本市出身の企業関係者や進出済み企業の本社などから34人、そのほか、ふるさと会、市内商工団体、市議会議員の方々など総勢70人の参加をいただき、大曲地域出身で声楽家の小松英典こまつひでのりさんによる講演のほか、市の企業支援策の紹介や参加企業の現状などについて情報交換を行っております。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画道路中通線の整備については、区画整理事業分は来年1月末の完了を予定しており、街路事業分を含め年度内の暫定供用を目指し工事を進めております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業については、区画道路新設工事、下水道工事ともに1路線を残し発注済みであり、建物移転については、11月12日をもって全ての補償契約を完了しております。

道路整備事業については、平成25年度から国の防災・安全交付金を活用し、歩行者空間の整備を進めている追分板杭線について、12月上旬には完成し、全区間における整備が完了する予定であります。

また、主要幹線の道路に付属する照明灯や道路標識などの健全度を把握する道路ストック点検業務については、秋田県内の市町村が道路施設点検業務の包括発注などを目的に設立した「市町村橋梁等長寿命化連絡協議会」と基本協定を締結し、9月12日には点検業務を委託しております。

市単独事業である各地域27カ所の道路工事については、13カ所が完了し、12カ所は発注済みであり、残り2カ所の工事についても早期発注に努め

てまいります。

橋梁長寿命化修繕事業については、大曲地域の丸子橋と中仙地域の坂の上橋について、橋梁補修・補強設計業務をまもなく発注予定であり、来年度からの補修工事の実施に向け、年度内に設計を終える予定であります。

水害対策事業については、秋田県が事業を実施している福部内川河川改修事業に関連し、支川内水処理のため新設する排水機場のうち、最下流部の福見町排水機場の詳細設計業務を発注済みのほか、朝日町地下道の排水処理の見直しを行う調査・検討業務についても発注を終えております。

住宅リフォーム支援事業については、市民の関心も高く、11月21日現在で、申請件数447件、補助金額で7,490万円、対象工事費は10億5,323万円となっており、このうち、克雪対策については、申請件数121件、補助金額で2,011万円、対象工事費は1億7,795万円となっております。

次に、国・県関係事業についてであります。

今後の河川の具体的整備内容を定める雄物川水系河川整備計画については、平成20年1月に基本方針が策定された後、同年2月から翌年6月までに大学教授や私も含む11人の委員により、5回の学識者懇談会が開催されたところであり、途中、成瀬ダムの事業検証により懇談会は中断されておりましたが、計画の素案を提示する6回目の懇談会が本年7月に再開され、11月10日に開催の第7回の懇談会において計画の原案がまとまったことから、国土交通省では、まもなく河川整備計画を公表する予定と伺っております。

県事業の淀川改修については、馬場橋下流の570メートルについて、12月までの工期で築堤工事が進められているほか、引き続き嵩上げ工事を行う予定と伺っております。また、馬場橋上流については、県営ほ場整備事業との整合を図るため、測量業務及び設計業務を実施中と伺っております。

斉内川改修については、長野地区において、左岸側の水路付け替え工事が11月中に完了予定であり、右岸側は堤防嵩上げ工事を実施中と伺っております。

県道整備については、土川中仙線の^{たていし}立石工区1.1キロメートルについて、

まもなく整備が完了する見通しであると伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業については、大曲住吉町地内ほか5件の配水管改良工事が、10月下旬までに完了しております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事及び配水管布設工事については、本年度予定していた工事4件について、9月上旬までに発注を終え、12月下旬の完了を予定しております。

簡易水道事業については、淀川地区の実施設計業務を9月下旬に、仙北中央地区の水源詳細調査業務を10月上旬に発注を終えております。また、大沢郷地区区域拡張に伴う配水管布設工事は、12月中旬の完了を予定しております。

なお、一昨日、西仙北地域強首簡易水道において発生した濁り水については、配水池の水位低下があり、現在、原因を調査中ではありますが、給水車を出動させるなど、住民生活への影響を最小限に抑えるよう対応に努めており、原因が判明次第、対策を講じてまいります。

公共下水道事業については、大曲、神岡、南外地域において、管渠工事13件を発注しており、来年1月下旬までの完了を予定しております。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校施設の整備については、第3回定例会において補正予算を承認いただいた屋内運動場等の吊り天井等落下防止対策について、国では平成27年度までの対策完了を目指すこととしており、本市においても早急に対策が講じられるよう、今次定例会においても、小・中学校20校の実施設計に係る予算の補正をお願いしております。

衛生管理手法のひとつであるHACCP（ハサップ）の導入については、本市学校給食総合センターが2月に認証申請を行っていましたが、10月21日に、秋田県食品自主的衛生管理認証（秋田県HACCP）を取得しております。県内の学校給食施設として初めての取得であり、今後は、認証された衛生管理マニュアルの徹底を図り、安全・安心でおいしい給食提供に努めてまいります。

ます。

西部学校給食センターの建設については予定どおり進んでおり、12月19日には、建物の完成及び厨房設備の設置が完了する運びとなっております。今後は、調理員による厨房設備の操作訓練等を行い、来年4月から神岡、西仙北及び協和地域の各小・中学校に給食を提供することとしております。なお、竣工式は3月下旬に予定しております。

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果については、第3回定例会で報告させていただきましたが、その後の分析結果について補足させていただきます。

本市の児童生徒は、記述型の問題についての無解答率が極めて低いなど、粘り強く学習に取り組む姿が浮き彫りとなっており、各学校が小・中連携による9年間を見通した学習指導の充実を図り、児童生徒主体の学習を進めてきた成果であると捉えております。また、望ましい生活環境の中で基本的な生活習慣及び学習習慣が確立され、児童生徒は全体として意欲的に学習に取り組むことができているとも捉えており、児童生徒の夢や希望を育み、総合的な学力の育成を図る市の諸施策や、豊かな体験活動及び学習環境整備を支える地域の協力、そして、保護者が一体となったPTA連合会の活動などの基盤があつての成果であると認識しております。今後とも、児童生徒の学ぶ意欲や豊かな心の育成に向けた取り組みの充実を期し、学習環境の整備に取り組んでまいります。

防災教育については、2年目の事業として展開している「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」の中核をなす避難所開設に関わる訓練を、9月4日、大曲西中学校を会場に実施しております。地域の自主防災組織や地域住民のご協力をいただき、警察、消防等関係機関との連携により、中学生サミットのメンバーなども含め約320人が参加し、避難所を開設した中学生から地域の自主防災組織へ避難所運営の引き継ぎを行うなど、より実践的な訓練を実施しております。

さらに、この取り組みをモデルとして、9月16日、17日には平和中学校が、10月17日には神岡小学校が、10月24日、25日には西仙北小学校が、そして、10月30日には大曲中学校が、地域住民や関係機関と連携して避難所開設に関わる訓練を実施しております。

また、本事業では、被災地との交流活動を支援しており、これまでに、5中学校が連携している小学校や地域の方々とともに、それぞれ継続して交流している被災地と複数回の交流活動を実施しているほか、小学校単独の交流活動も行われるなど活動が広がってきており、今後ますます交流が深まることを期待しております。

沖縄県との交流については、糸満市の児童生徒及び教職員等55人が本市を訪れ、10月21日から25日まで、太田南小学校、太田中学校等において交流事業を実施しております。また、南城市からは、PTA役員等を含む21人が中仙幼・小・中学校を訪れ交流を行っております。

県外からの教育視察の状況については、11月20日現在で予約も含め78団体483人となっておりますが、本年度の特徴として滞在型実践研修が増加しております。例として、高知県教育委員会主催の外国語教育コア・ティーチャー育成事業実践向上研修の教員等12人が大曲中学校等で4日間、東京都足立区教育委員会の小・中学校教員等15人が花館小学校、仙北中学校等で5日間の視察研修を行っております。

子どもたちの夢の実現意欲を育む、こころのプロジェクト「夢の教室」については、小・中学生それぞれを対象とした音楽バージョンを開催しております。10月30日、31日には、6小学校の主に5年生を対象にチェリストの^{はがわしんすけ}羽川真介さんを迎え、また、10月21日には、市内全中学1年生を対象に、秋田市出身で国際的に活躍されているピアニストの^{さとうたかし}佐藤卓史さんを、本事業では初めて夢先生として迎えております。

学習指導の充実のための取り組みについては、各学校が公開研究会を開催し、県内外からの参加者を得て取り組みの成果を発信し、教員の研修の充実を図っております。

11月14日には、大曲中学校が、文部科学省等の研究指定を受け、国語科や外国語科を中心に取り組んだ授業改善の実践研究の成果を公開しております。11月17日には、藤木小学校、角間川小学校、大曲南中学校が環境教育に取り組んできた成果を公開し、また、12月2日には、西仙北中学校が、国立教育政策研究所の教育課程研究指定事業で美術の授業改善の研究に取り組んだ成果を公開する予定となっております。

学校視察や公開研究会への参加者などから全国各地の教育事情を学ぶことができることは、本市の取り組みを見直す貴重な機会となっております。

生涯学習の推進については、冒頭で申し上げました国民文化祭以外の事業では、9月2日に市民俳句大会を開催しております。市内の中学生にも投句を呼びかけたところ、大曲、中仙、協和、南外の各中学校生徒から過去最高の641句が寄せられ、一般の180句とあわせ821の投句をいただいております。また、9月20日には市民短歌大会を開催し、一般から78首が寄せられております。

西仙北地域で開催された東北将棋大会については、11月13日から16日まで、東北の7大学から52人が参加し西仙北青少年自然の家に合宿しながら学生大会が開催されたほか、11月16日には、各部門に県内外から101人が参加し市長杯争奪戦が開催され、それぞれ熱戦が繰り広げられたところであります。

芸術文化関係については、10月18日、19日には、大曲市民会館を会場に「音とおどりフェスタ」、10月25日、26日には、仙北ふれあい文化センターを会場に作品展示を中心とした「大仙市芸術祭」、11月9日には、同センターを会場に秋田、青森両県の民俗芸能団体が出演した「民俗芸能フェスティバル」、11月23日には、神岡農村環境改善センターを会場に「秋田飴売り節全国大会」が開催され、多くの市民の方々に鑑賞いただいております。

5月12日から市内8カ所で開催している出前民謡「ふるさと民謡めぐり」については、来年1月17日の仙北地域での開催を残すのみとなっておりますが、これまで延べ1,700人の方々が来場しております。

文化財保護については、国登録有形民俗文化財「秋田南外の仕事着」に関連し、10月5日に、中学生が仕事着を実際に着用してのファッションショーが開催され、多くの方々が農村地域における生活文化への理解を深める機会となっております。

また、国指定重要文化財の古四王神社については、本市も番組制作に参画したテレビ特別番組が11月22日に放映され、郷土の歴史文化を知る機会となっております。

スポーツ振興については、36回目を迎えた全県500歳野球大会が、9月

20日から24日までの5日間、神岡野球場を主会場に市内18会場で開催され、全県各地から過去最多となる181チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。なお、今大会から文部科学大臣杯が恵贈されたほか、地元の神岡大浦クラブが準優勝を果たすなど、大きな盛り上がりとなったところであります。

また、10月18日には、神岡地域の嶽ドームにおいて、市内の全11中学校の野球部員と指導者約250人が参加し、元プロ野球選手こんどうあきひとの近藤昭仁さん、やぎさわそうろうく八木沢荘六さん、なかつかまさゆき中塚政幸さんの3人による中学生野球教室を開催しております。なお、この野球教室は、神岡地域に工場を持つ樹脂成形品メーカーの「株式会社セーコン」から橋渡しをいただき、4月の小学生野球教室に続き開催が実現したものであります。

市内の各スキー場については、12月20日を皮切りにオープンする予定となっており、本年度も児童生徒が雪国のスポーツを通じて体力づくりが行えるよう、市内の小学校、中学校1、2年及び養護学校の児童生徒を対象に、無料のリフトシーズン券を配付することとしております。

最後に、平成27年度当初予算編成について申し上げます。

来年度は、西部学校給食センター建設事業や特別養護老人ホーム峰山荘改築事業への支援などの大型事業が終了するものの、最終年度となる大曲通町地区第一種市街地再開発事業の南街区の整備事業が実施されることなどから、現時点での推計で、一般会計の当初予算総額は、本年度を20億円下回る450億円程度になるものと見込んでおります。

また、来年度からは、合併特例措置の段階的な縮減が始まることから、普通交付税の減額は避けられない状況であり、一層の行財政改革が必要になるものと考えております。

こうした中で、これまで以上に市民が将来に希望を持ち、安心して暮らせるまちづくりへと前進させるため、限られた財源の中で、より一層の施策の「選択と集中」が必要となってまいります。

このため、予算編成では「『予算は市民のため』であることの再確認」、「これからの大仙市を見据えた施策の取組」、「歳出規模の抑制と財政基盤の強化への早期対応」、「雪対策総合計画と公共施設等総合管理計画への取

組」、「職員の創意工夫及び部局間調整と連携強化」の5項目を柱として定め、各部局が創意工夫と横断的な連携をもって、刻々と変化する社会情勢に的確に対応し、市民サービスの向上と市政発展に資する予算を構築するよう編成作業を進めてまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況を報告いたしましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます、市政報告とさせていただきます。